

通勤・通学圏でみた中部圏の地域構造

中部圏の整備方針や都市間・地域間連携の方策などの検討に向けた基礎資料として、通勤・通学圏による中部圏の地域構造を把握する。

(通勤・通学圏の設定)

1. 核都市の設定方法

- ・人口 10 万人以上で昼夜間人口比率(*)が 100 以上の都市
- ・上記の都市で、距離が 20km 以内のものは、1 つにまとめる。

*昼夜間人口比率＝常住人口 100 人あたりに対する昼間人口の割合

2. 通勤・通学圏の設定方法

核都市ではない市町村について、以下の基準に当てはまれば、その核都市の通勤・通学圏に含まれることとする。

- ・核都市への通勤・通学者が 500 人以上の市町村
- ・核都市への通勤・通学者/在住の通勤・通学者が 0.05 (5%) を上回る市町村

これより、中部圏では 15 の通勤・通学圏が設定される。

中部圏		隣接圏	
圏域名	核都市	圏域名	核都市
長野圏域 (13)	長野市	上越圏域 (3)	上越市
松本圏域 (9)	松本市	富山・高岡圏域 (18)	富山市・高岡市
上田圏域 (9)	上田市	金沢圏域 (12)	金沢市
飯田圏域 (6)	飯田市	小松圏域 (3)	小松市
佐久圏域 (6)	佐久市	福井圏域 (17)	福井市
岐阜・大垣圏域 (23)	岐阜市・大垣市	甲府圏域 (16)	甲府市
静岡圏域 (9)	静岡市	草津圏域 (6)	草津市
浜松・磐田圏域 (6)	浜松市・磐田市	彦根圏域 (9)	彦根市
富士・沼津圏域 (12)	沼津市・富士市	京都圏域 (23)	京都市
名古屋・小牧・東海圏域 (62)	名古屋市・小牧市・東海市	奈良圏域 (16)	奈良市
豊田・刈谷・安城圏域 (14)	豊田市・刈谷市・安城市		
西尾圏域 (6)	西尾市		
津圏域 (13)	津市		
四日市圏域 (10)	四日市市		
伊賀圏域 (2)	伊賀市		

* ()内は構成市町村の数

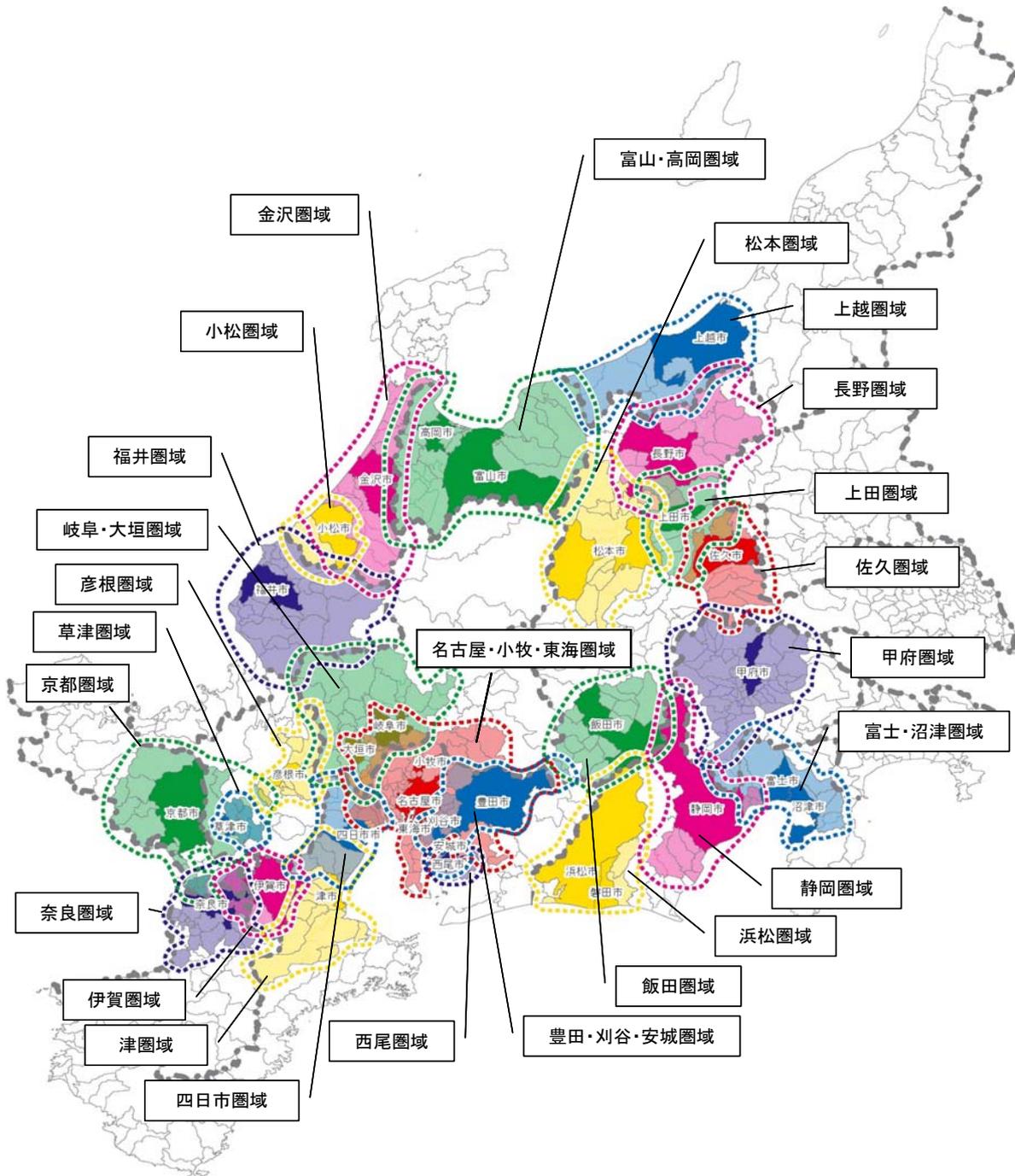
※圏域の設定は、各自治体のゾーニングや商圏等を基にすることが考えられるが、各自治体のゾーニングに対する考え方や基準、また、購買動向調査等の実施状況に相違があり設定のための一定の基準を得ることができなかつたり、データの取得が容易でないことなどから、ここでは通勤・通学圏による手法を採っている。

○通勤・通学圏の分布からみた中部圏の地域構造

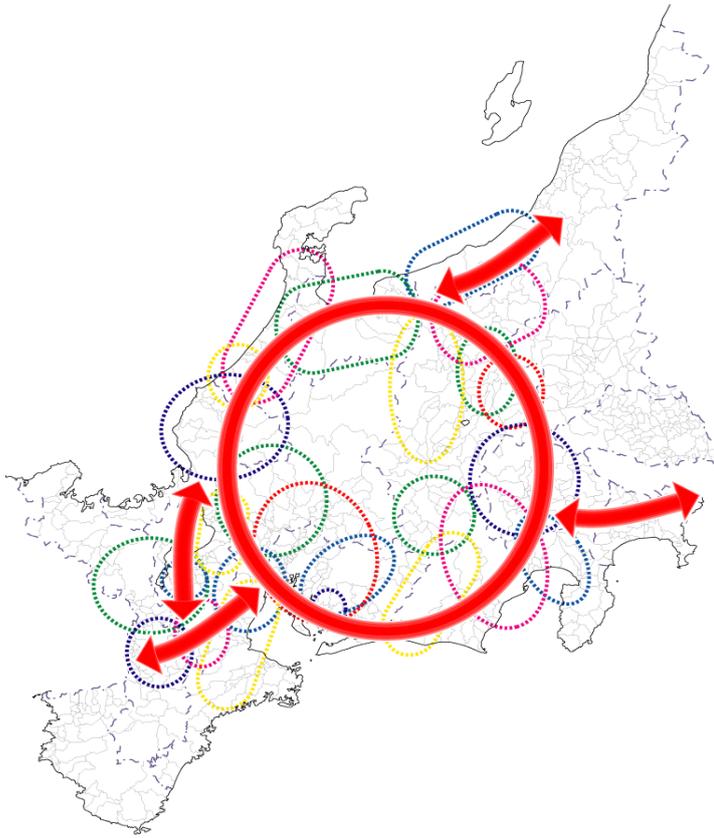
中部圏では、名古屋市を核都市とした名古屋・小牧・東海圏域が最も規模が大きく、豊田・刈谷・安城圏域を包含するとともに、西尾圏域、岐阜・大垣圏域、四日市圏域とも重複するなど、重層的な構造となっている。しかし、全体として核都市が分散して立地しており、それぞれの圏域が隣接もしくは重複し、互いに連担しながら帯状の都市群を形成する分散型の地域構造となっている。

帯状の都市群は、隣接する甲府圏域や北陸の各圏域とも連担しており、その結果、標高が高く、地形条件の厳しい中部山岳帯を取り囲むように環状の都市群が形成され、他広域圏の国土軸と放射状につながる多軸連携型の地域構造を形成しているという特徴がみられる。

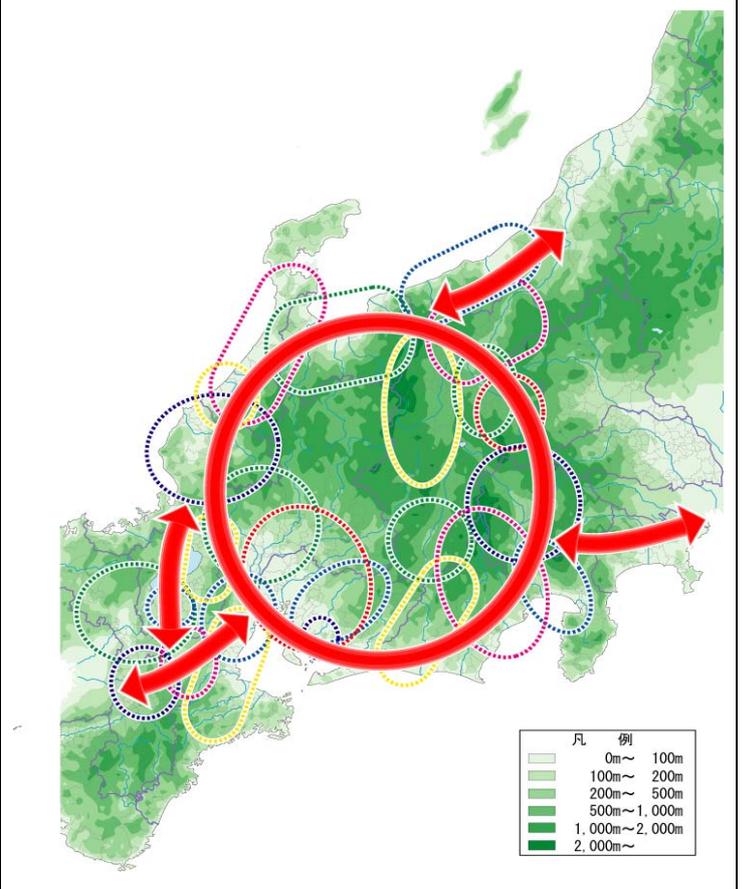
通勤・通学圏の分布状況(平成17年国勢調査ベース)



圏域の連担による環状都市群の形成



環状都市群と地形条件



【人口】

名古屋・小牧・東海圏域の人口が約 711 万人と最も大きい、岐阜・大垣圏域や静岡圏域など、100 万人規模の圏域が複数みられ、名古屋・小牧・東海圏域を中心に人口規模が大きな圏域が集積している。

将来人口については、豊田・刈谷・安城圏域を除き減少と予測されるが、長野圏域や岐阜・大垣圏域など、特に山間地が含まれる圏域や、環状都市群に含まれない飛騨地域や木曾地域などの中部山岳地域で減少率が高い傾向にある。

65 歳以上の高齢者人口については、常住人口に占める割合が 20%前後の圏域がほとんどであるが、沿海部の圏域で低く、山間部の圏域で高い傾向にある。

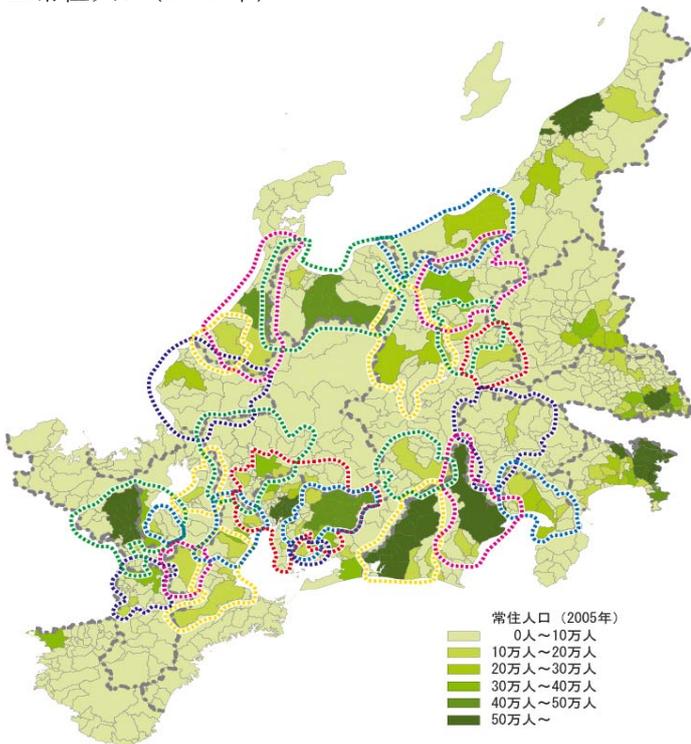
なお、外国人居住者の比率については、浜松・磐田圏域が 3.39%と最も高く、ついで豊田・刈谷・安城圏域が 2.89%になるなど、工業を中心に発展してきた圏域で高い傾向にある。

各圏域の人口関連データ

	構成市町村	常住人口 (人)	将来人口 (2030年) (人)	人口増加率 (2000～ 2030)	高齢者人口 比	外国人人口 比
長野圏域	13	649,537	559,740	-14.81%	23.22%	0.87%
松本圏域	9	470,638	461,491	-1.40%	22.03%	1.70%
上田圏域	9	328,337	308,821	-7.43%	23.53%	2.25%
飯田圏域	6	165,545	150,781	-10.24%	26.76%	1.90%
佐久圏域	6	186,445	184,186	-1.91%	24.42%	1.59%
岐阜・大垣圏域	23	1,294,495	1,123,323	-13.01%	19.75%	1.79%
静岡圏域	9	1,120,803	912,771	-18.98%	21.03%	0.97%
浜松・磐田圏域	6	1,136,070	1,095,820	-1.50%	19.63%	3.39%
富士・沼津圏域	12	930,036	813,077	-12.18%	19.15%	1.30%
名古屋・小牧・東海圏域	62	7,107,463	6,661,955	-4.21%	17.62%	2.38%
豊田・刈谷・安城圏域	14	1,395,262	1,460,460	10.74%	14.49%	2.89%
西尾圏域	6	270,104	242,055	-7.26%	17.99%	2.53%
津圏域	13	715,247	656,475	-6.07%	20.26%	2.32%
四日市圏域	10	833,238	790,051	-3.12%	18.44%	2.42%
伊賀圏域	2	182,706	172,929	-6.43%	22.00%	2.70%
上越圏域	3	294,406	253,739	-16.69%	25.85%	0.94%
富山・高岡圏域	18	1,089,072	931,370	-15.24%	23.22%	1.04%
金沢圏域	12	929,321	851,404	-7.83%	18.71%	0.75%
小松圏域	3	231,087	205,334	-11.59%	21.23%	0.96%
福井圏域	17	665,306	593,020	-11.50%	22.23%	1.58%
甲府圏域	16	657,540	614,908	-6.40%	21.77%	1.89%
草津圏域	6	657,694	747,080	26.01%	15.54%	1.49%
彦根圏域	9	279,312	303,231	10.40%	19.56%	2.45%
京都圏域	23	2,938,157	2,944,633	1.28%	18.38%	2.31%
奈良圏域	16	1,071,786	1,042,449	-2.93%	18.82%	0.76%

(出所)平成 17 年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口（平成 15 年 12 月推計）」

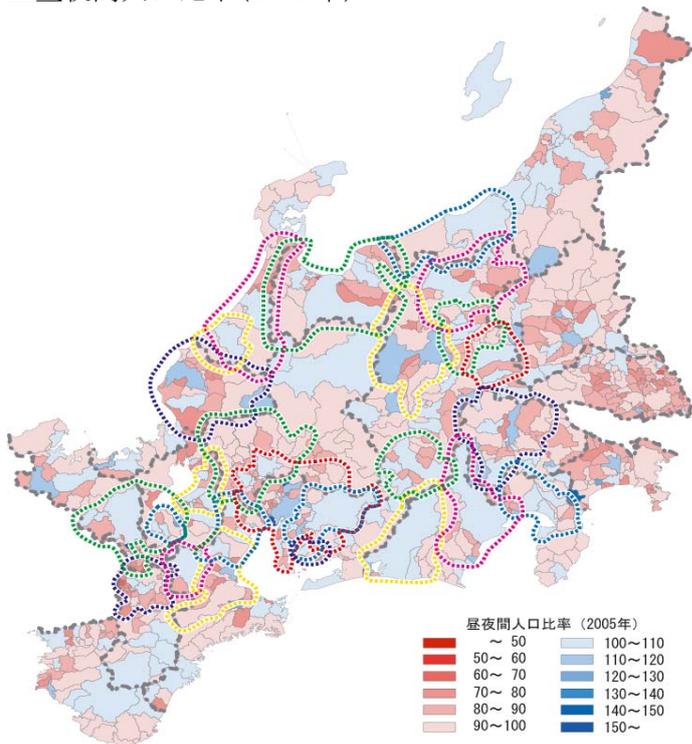
■ 常住人口 (2005 年)



* 市町村境界は平成 17 年 10 月 1 日時点
* 点線は圏域をあらわす

(出所)平成 17 年国勢調査

■ 昼夜間人口比率 (2005 年)

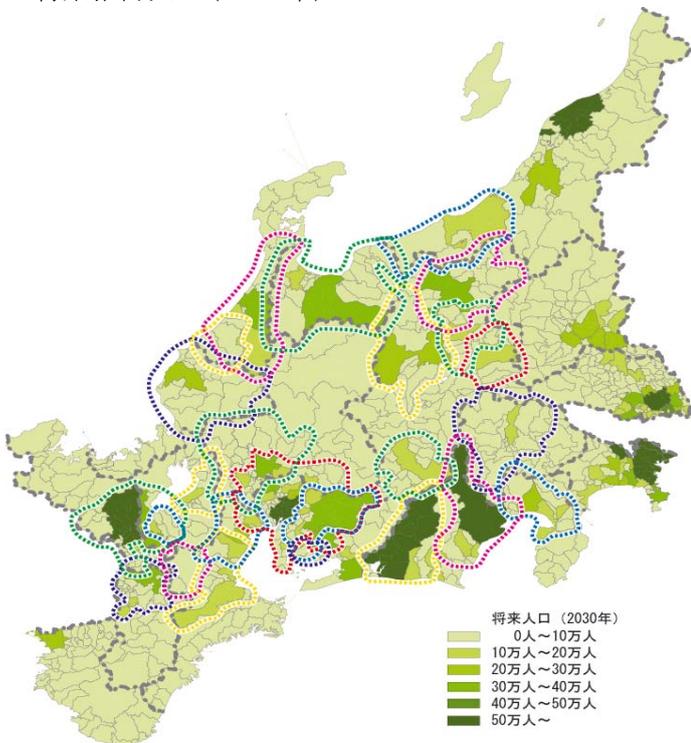


* 昼夜間人口比率：夜間人口(常住人口)100 人に対する昼間人口の割合

* 市町村境界は平成 17 年 10 月 1 日時点
* 点線は圏域をあらわす

(出所)平成 17 年国勢調査

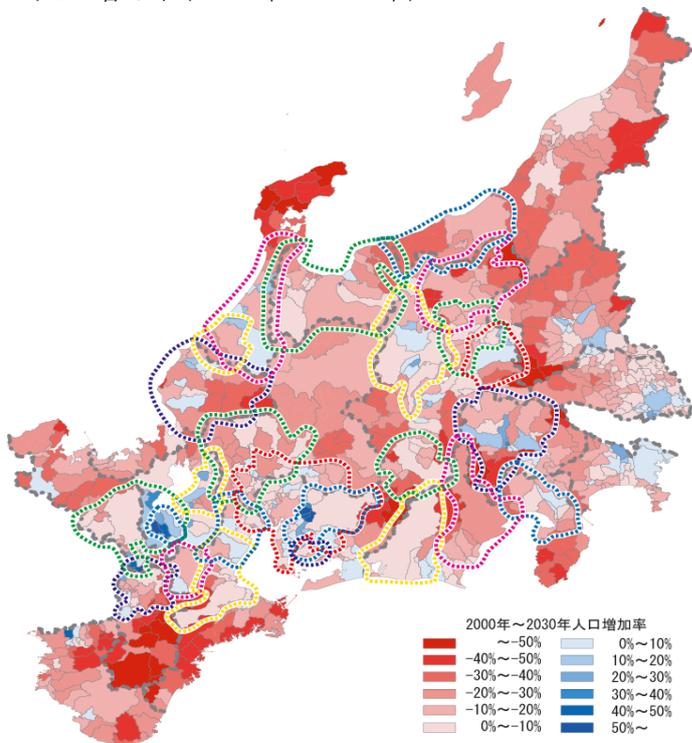
■ 将来推計人口 (2030 年)



* 市町村境界は平成 17 年 10 月 1 日時点
* 点線は圏域をあらわす

(出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口 (平成 15 年 12 月推計)」

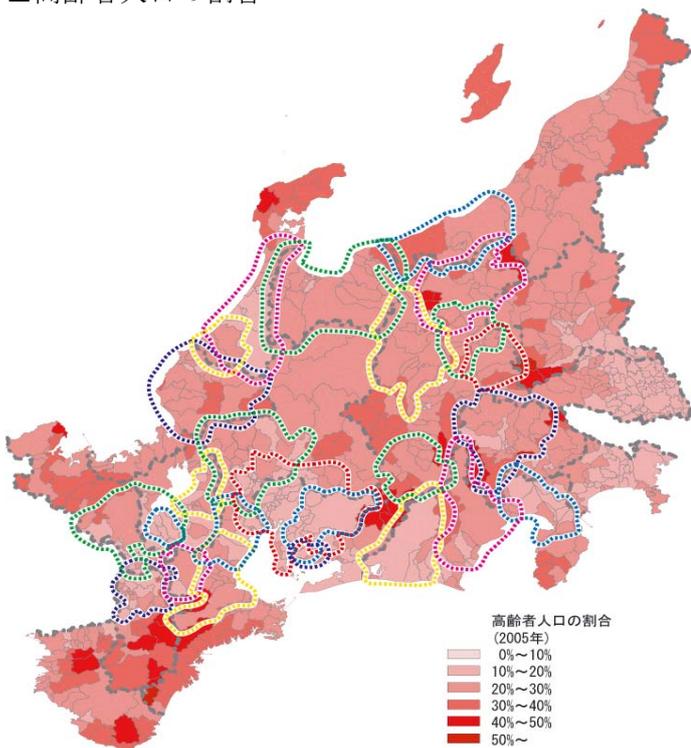
■ 人口増加率 (2000 年~2030 年)



* 市町村境界は平成 17 年 10 月 1 日時点
* 点線は圏域をあらわす

(出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口 (平成 15 年 12 月推計)」をもとに作成

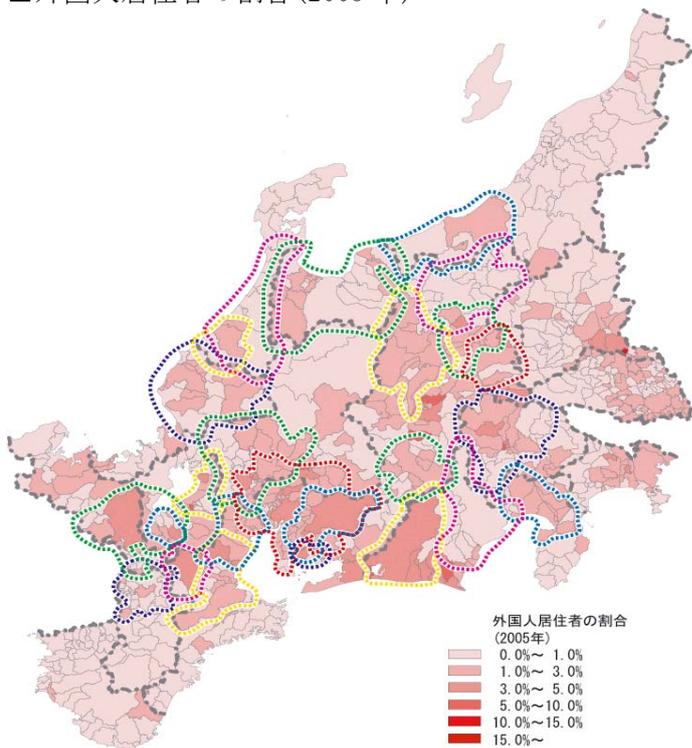
■高齢者人口の割合



*高齢者人口の割合：常住人口に対する65歳以上人口の割合
 *市町村境界は平成17年10月1日時点
 *点線は圏域をあらわす

(出所)平成17年国勢調査

■外国人居住者の割合(2005年)



*外国人居住者の割合：常住人口に対する外国人居住者の割合
 *市町村境界は平成17年10月1日時点
 *点線は圏域をあらわす

(出所)平成17年国勢調査

【農業】

各圏域の農業についてみると、農家数は圏域規模に準じているものの、地域別にみると浜松市、豊田市、静岡市、上田市、佐久市で多い状況にある。農家あたりの経営耕地面積をみると、農家が多い都市およびその周辺で耕作地面積が大きい傾向にある。また、耕作放棄農地率については、農家あたりの経営耕地面積が小さな山間地域で高い傾向にあり、特に環状都市群に含まれない岐阜飛騨地域から木曾地域、南信州地域にかけてその傾向が強くなっている。

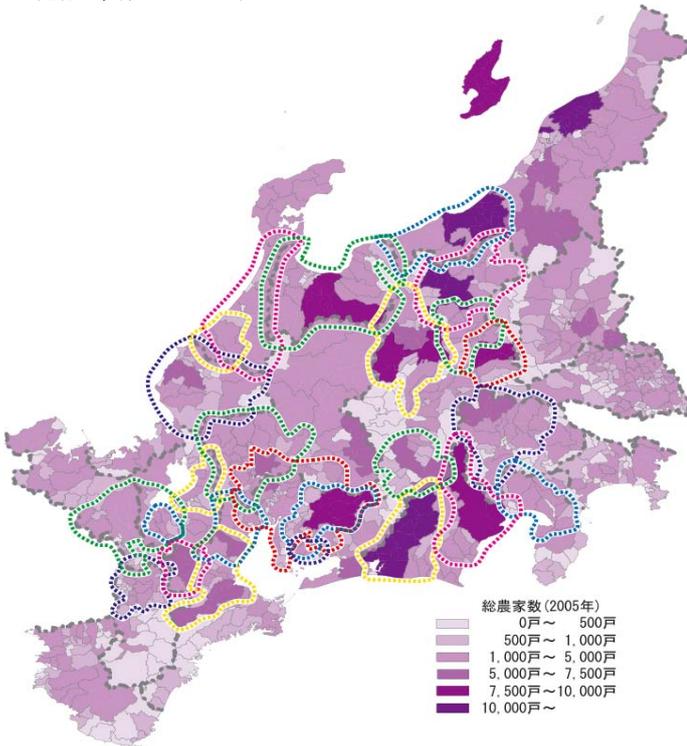
一方、農業産出額については、浜松・磐田圏域および豊橋市、田原市などの東三河地域で高くなっており、耕地面積あたりでもほぼ同様の傾向を示していることから、温暖な気候を活かした、花きをはじめとした付加価値の高い生産が行われていることがうかがえる。

各圏域の農業関連データ

	構成市町村	林野率	総農家数 (戸)	経営耕地面積 (ha)	農家あたり 経営耕地面積 (ha/戸)	耕作放棄農 地率	農業産出額 (千万円)	耕地面積あた り農業産出額 (百万円/ha)
長野圏域	13	66.23%	35,966	18,895	0.525	21.72%	—	—
松本圏域	9	72.48%	25,631	20,115	0.785	10.25%	—	—
上田圏域	9	65.99%	20,413	10,241	0.502	23.01%	2,908	1.78
飯田圏域	6	68.24%	15,831	10,976	0.693	22.13%	3,856	2.96
佐久圏域	6	—	41,748	25,051	0.600	7.55%	6,352	2.10
岐阜・大垣圏域	23	68.24%	18,007	10,779	0.599	20.98%	5,104	1.94
静岡圏域	9	60.19%	14,931	8,831	0.591	19.60%	4,307	3.33
浜松・磐田圏域	6	66.38%	55,248	40,421	0.732	17.17%	26,016	2.88
富士・沼津圏域	12	—	85,600	—	—	—	15,591	3.21
名古屋・小牧・東海圏域	62	50.98%	30,547	19,926	0.652	11.77%	7,666	2.35
豊田・刈谷・安城圏域	14	—	21,966	9,560	0.435	10.96%	2,674	2.59
西尾圏域	6	4.51%	4,526	3,114	0.688	18.40%	1,657	4.28
津圏域	13	57.73%	25,683	21,482	0.836	9.57%	5,365	1.95
四日市圏域	10	—	20,628	17,126	0.830	9.12%	4,493	1.98
伊賀圏域	2	61.30%	8,763	7,377	0.842	13.67%	1,640	1.46
上越圏域	3	68.62%	16,399	17,704	1.080	9.71%	2,925	1.20
富山・高岡圏域	18	56.38%	39,720	44,695	1.125	4.64%	7,518	1.25
金沢圏域	12	63.10%	17,129	23,034	1.345	9.78%	4,267	1.46
小松圏域	3	69.85%	27,405	28,103	1.025	3.37%	4,564	1.35
福井圏域	17	66.76%	6,763	3,448	0.510	20.90%	1,045	1.31
甲府圏域	16	72.23%	32,378	16,837	0.520	19.93%	—	—
草津圏域	6	62.18%	14,654	12,162	0.830	4.87%	1,846	1.25
彦根圏域	9	51.28%	11,506	11,513	1.001	3.51%	1,745	1.10
京都圏域	23	65.11%	31,905	22,615	0.709	4.83%	6,277	2.18
奈良圏域	16	50.54%	21,144	11,409	0.540	17.56%	3,820	2.16

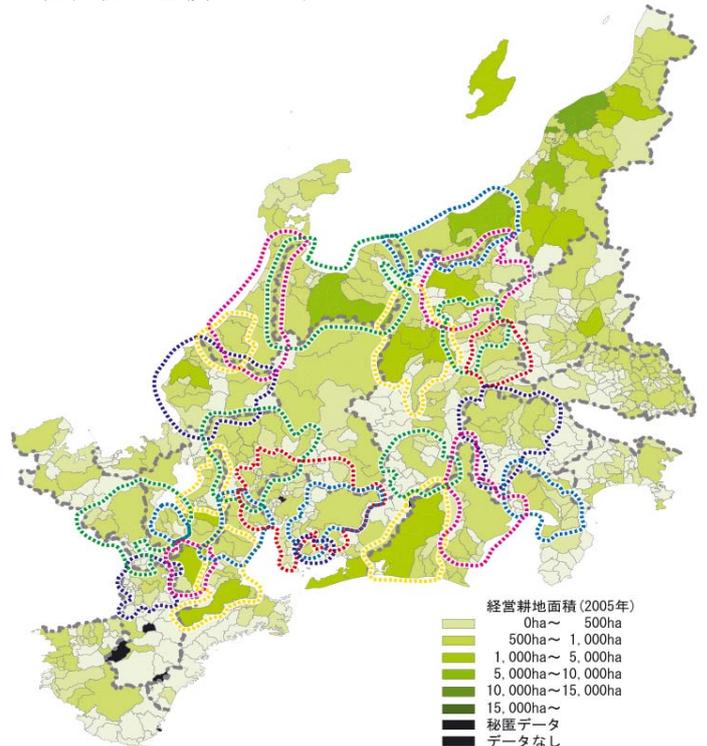
(出所) 農林水産省「2005年農林業センサス」、「生産農業所得統計」、「農林水産関係市町村別データ(年産)」

■総農家数(2005年)



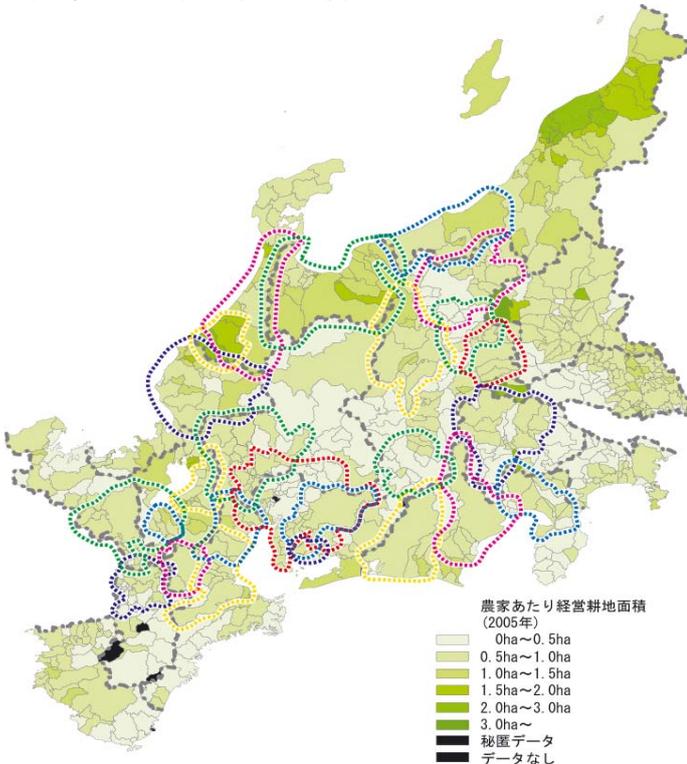
*市町村境界は平成17年10月1日時点
*点線は圏域をあらわす
(出所)農林水産省「2005年農林業センサス」をもとに作成

■経営耕地面積(2005年)



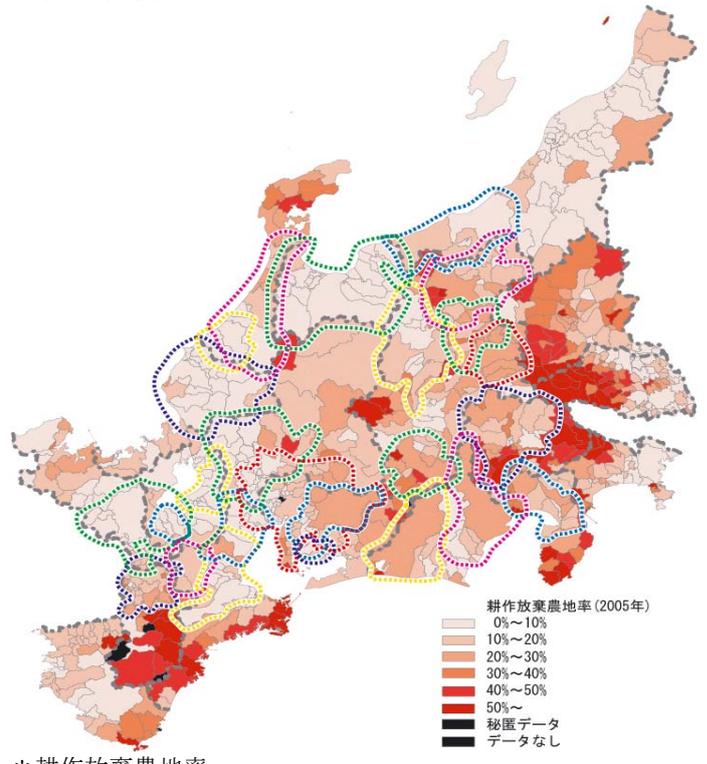
*市町村境界は平成17年10月1日時点
*点線は圏域をあらわす
(出所)農林水産省「2005年農林業センサス」をもとに作成

■農家あたり経営耕地面積(2005年)



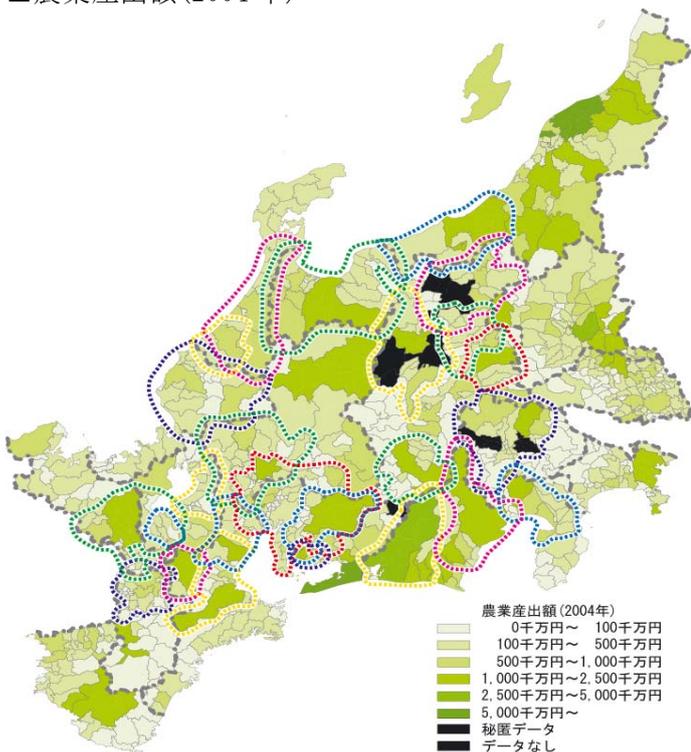
*市町村境界は平成17年10月1日時点
*点線は圏域をあらわす
(出所)農林水産省「2005年農林業センサス」をもとに作成

■耕作放棄農地率(2005年)



*耕作放棄農地率
(耕作放棄農地面積)/[(経営耕地面積)+(耕作放棄農地面積)]
*市町村境界は平成17年10月1日時点
*点線は圏域をあらわす
(出所)農林水産省「2005年農林業センサス」をもとに作成

■農業産出額(2004年)

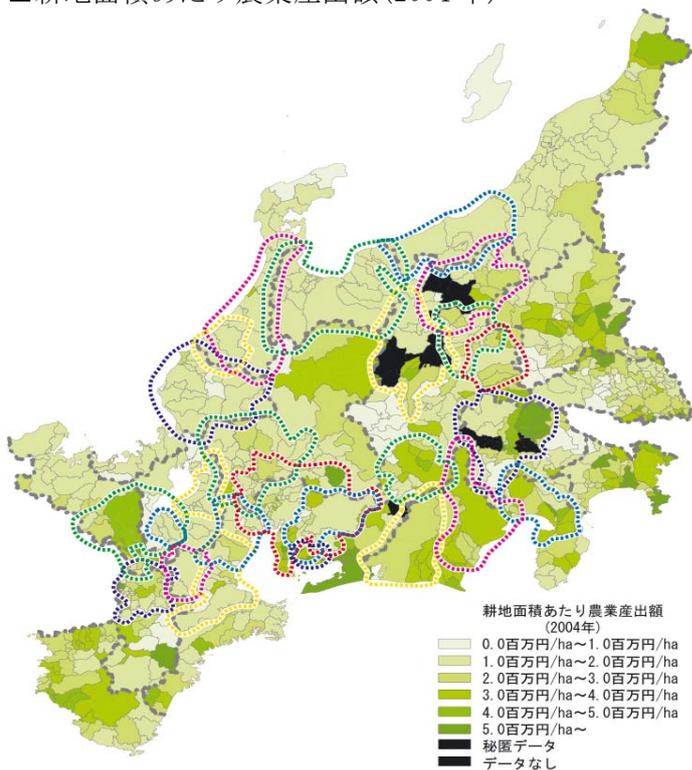


*市町村境界は平成17年10月1日時点

*点線は圏域をあらわす

(出所)農林水産省「生産農業所得統計」をもとに作成

■耕地面積あたり農業産出額(2004年)



*市町村境界は平成17年10月1日時点

*点線は圏域をあらわす

(出所)農林水産省「生産農業所得統計」、「農林水産関係市町村別データ(年産)」をもとに作成

【工業】

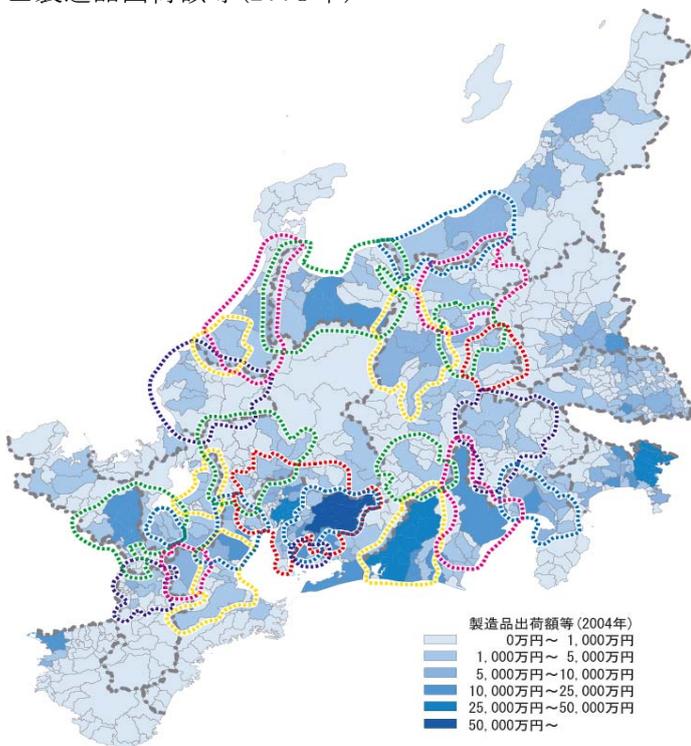
名古屋・小牧・東海圏域や豊田・刈谷・安城圏域など、沿海部の圏域への集積がみられる。従業者あたりの製造品出荷額等をみると、地域別では大手自動車メーカーおよび関連企業が集積する豊田市、田原市で突出しており、圏域別にみても、沿海部の圏域で高い傾向にある。

各圏域の工業関連データ

	構成市町村	事業所数	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (万円)	従業者あたり製造品出荷額等 (万円/人)
長野圏域	13	1,575	49,048	1,080,658	22.03
松本圏域	9	1,079	40,023	1,517,029	37.90
上田圏域	9	1,316	47,015	1,389,324	29.55
飯田圏域	6	600	16,710	348,558	20.86
佐久圏域	6	570	18,609	496,732	26.69
岐阜・大垣圏域	23	4,677	116,153	2,777,420	23.91
静岡圏域	9	3,629	95,510	3,145,307	32.93
浜松・磐田圏域	6	4,340	162,654	6,432,952	39.55
富士・沼津圏域	12	3,238	115,469	4,262,110	36.91
名古屋・小牧・東海圏域	62	22,089	655,996	21,166,305	32.27
豊田・刈谷・安城圏域	14	4,764	291,445	17,109,332	58.71
西尾圏域	6	1,382	59,017	3,287,840	55.71
津圏域	13	1,530	69,949	3,487,368	49.86
四日市圏域	10	2,298	99,265	5,631,455	56.73
伊賀圏域	2	542	22,424	773,655	34.50
上越圏域	3	670	25,393	899,843	35.44
富山・高岡圏域	18	3,403	120,638	3,459,020	28.67
金沢圏域	12	2,997	77,397	2,066,168	26.70
小松圏域	3	1,066	28,911	747,057	25.84
福井圏域	17	2,765	67,011	1,567,133	23.39
甲府圏域	16	1,557	53,996	1,698,268	31.45
草津圏域	6	1,177	59,447	2,412,084	40.58
彦根圏域	9	798	28,760	1,332,252	46.32
京都圏域	23	6,036	183,269	6,194,368	33.80
奈良圏域	16	1,472	47,151	1,596,436	33.86

(出所) 工業統計

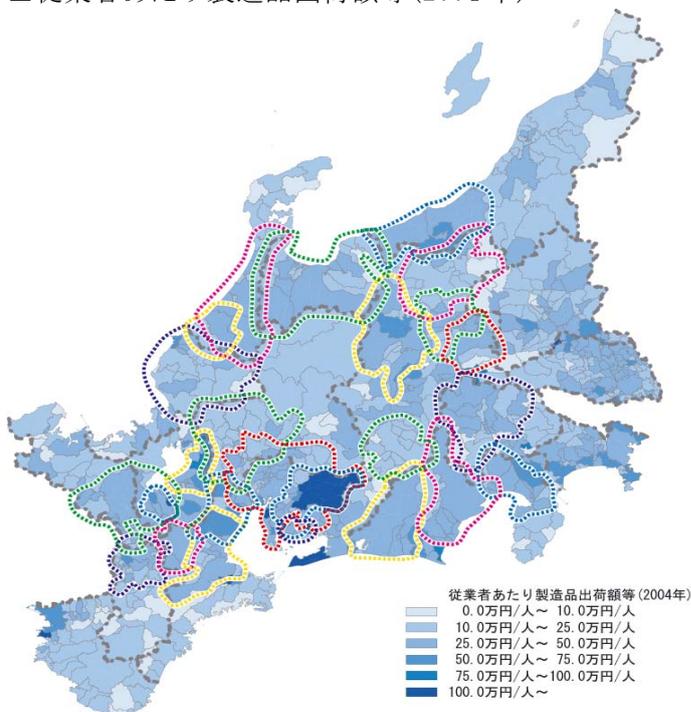
■ 製造品出荷額等(2004年)



* 市町村境界は平成17年10月1日時点
* 点線は圏域をあらわす

(出所) 工業統計をもとに作成

■ 従業者あたり製造品出荷額等(2004年)



* 市町村境界は平成17年10月1日時点
* 点線は圏域をあらわす

(出所) 工業統計をもとに作成

【商業】

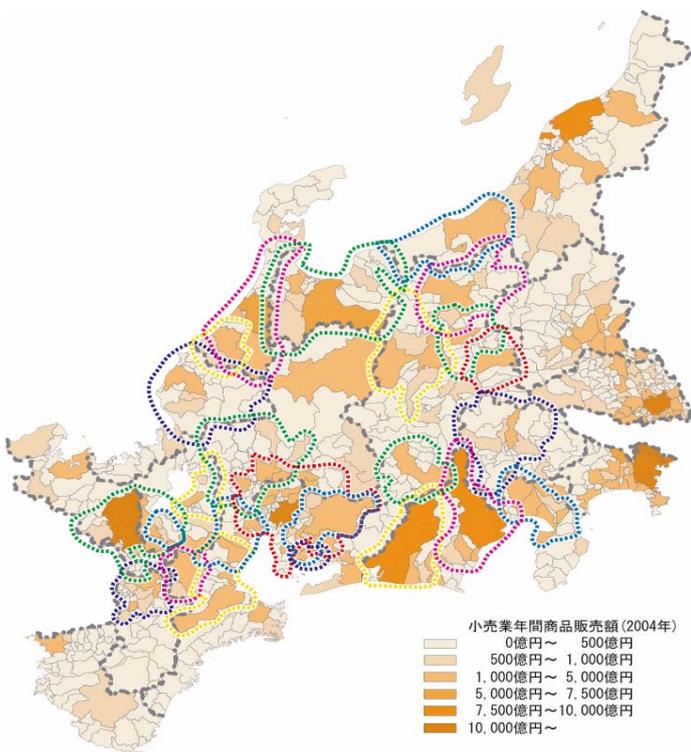
商業の集積は名古屋・小牧・東海圏域で最も大きい。地域別にみると核都市での小売業年間商品販売額が大きく、中でも名古屋市、浜松市、静岡市での販売額が大きい。なお、従業者あたりの小売業年間商品販売額では、長野県の本巣地域から愛知県三河地域、静岡県遠州地域にかけての飯田市・浜松市を覆う馬蹄状に連なる地域で低い傾向にある。

各圏域の商業関連データ

	構成市町村	商店数	従業者数 (人)	小売業年間 商品販売額 (百万円)	従業者あたり 小売業年間 商品販売額 (百万円/人)
長野圏域	13	6,867	41,461	709,930	17.12
松本圏域	9	4,880	31,124	563,876	18.12
上田圏域	9	3,464	20,827	331,506	15.92
飯田圏域	6	1,993	10,778	187,471	17.39
佐久圏域	6	2,050	11,750	195,238	16.62
岐阜・大垣圏域	23	13,208	78,813	1,297,185	16.46
静岡圏域	9	12,412	72,168	1,198,369	16.61
浜松・磐田圏域	6	10,358	63,662	1,156,180	18.16
富士・沼津圏域	12	9,180	55,615	975,759	17.54
名古屋・小牧・東海圏域	62	61,539	429,499	7,897,737	18.39
豊田・刈谷・安城圏域	14	10,039	75,778	1,343,250	17.73
西尾圏域	6	2,667	15,542	245,154	15.77
津圏域	13	6,443	41,561	710,430	17.09
四日市圏域	10	7,213	49,457	831,445	16.81
伊賀圏域	2	1,801	11,146	182,109	16.34
上越圏域	3	3,709	18,751	294,049	15.68
富山・高岡圏域	18	14,174	72,450	1,175,240	16.22
金沢圏域	12	9,767	60,448	1,063,125	17.59
小松圏域	3	2,682	14,469	224,461	15.51
福井圏域	17	8,352	43,608	722,826	16.58
甲府圏域	16	7,199	40,128	694,240	17.30
草津圏域	6	5,001	38,776	613,268	15.82
彦根圏域	9	3,042	19,722	289,047	14.66
京都圏域	23	29,361	196,307	3,344,407	17.04
奈良圏域	16	8,523	62,636	977,811	15.61

(出所)商業統計

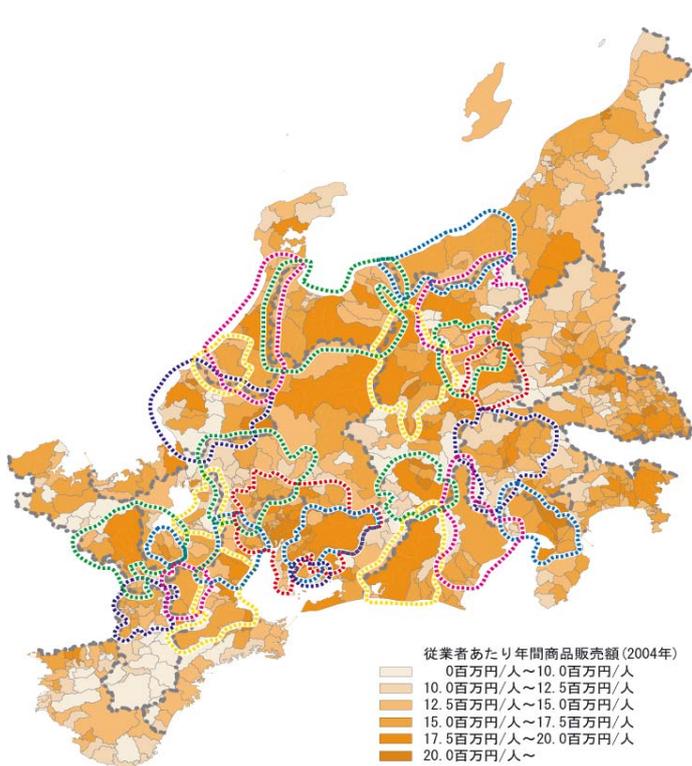
■小売業年間商品販売額(2004年)



*市町村境界は平成17年10月1日時点
*点線は圏域をあらわす

(出所)商業統計をもとに作成

■従業員あたり小売業年間商品販売額(2004年)



*市町村境界は平成17年10月1日時点
*点線は圏域をあらわす

(出所)商業統計をもとに作成

【まとめ】

- 中部圏は名古屋市を核都市とした名古屋・小牧・東海圏域を中心とした重層的な集積がみられるものの、全体としては核都市が分散して立地する分散型の地域構造であり、各圏域が連担して帯状の都市群を形成している。
- 帯状の都市群は隣接圏とも連担し、環状の都市群を形成するとともに、東西方向の国土軸へ放射状につながる多軸連携型の地域構造を形成している。
- 人口については、沿海部の圏域への集積がみられるが、山間部の圏域や環状都市群の空白地域では高齢化が進み、今後の人口減少率も高いなど格差が生じている。また、産業面においても、人口同様、沿海部と山間部および環状都市群の空白地域との格差が生じている状況にある。
- したがって、このような地域間格差の是正などに向けては、圏域の連担により形成される環状都市群という中部圏独自の特徴を活かした圏域間のネットワーク化を進め、圏域間の連携と役割分担による相乗効果を発揮させつつ取組を進めていくことが求められる。